

令和 6 年度 舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会

本校の外部評価委員会は、令和 4 年度より実施方法を改め、本校の自己点検を外部有識者に評価していただくことを目的として実施している。

本校の自己点検は認証評価の基準に合わせて実施しており、認証評価の基準を、次のように外部評価の観点①～⑥として整理している。

外部評価の観点	自己点検における対応する基準	担当部署	外部評価実施年度	評価
① 教育の内部質保証システム	1 教育の内部質保証システム	評価委員会 教務委員会 専攻科委員会	R6	
② 学習環境及び学生支援、修学支援、学寮運営	2 教育組織及び教員・教育支援者等について 3 学習環境及び学生支援の整備等について	学生委員会 学寮委員会 教務委員会	R5	
③ 準学士課程の教育活動の状況	5 準学士課程の教育課程・教育方法について 7 準学士課程の学習・教育の成果について	教務委員会	R6	
④ 入試の状況	6 準学士課程及び専攻科課程の学生の受入れについて	入試委員会	R4	
⑤ 専攻科の教育・研究活動の状況	8 専攻科課程の教育活動の状況について 9 研究活動の状況について	専攻科委員会	R6	
⑥ 地域貢献活動等の状況について	10 地域貢献活動等の状況について	地域共同テクノセンター	R4	
	(4 財務基盤及び管理運営について)			

毎年、観点を選択して外部評価を実施し、3 年程度ですべての観点の評価を実施する計画となっている。

令和 6 年度の外部評価委員会は以下のように対面で実施した。

1. 日 時 : 令和 6 年 11 月 15 日 (金) 13:50-15:32

2. 場 所 : 舞鶴工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 : 外部評価委員会委員 (敬称略)

長岡技術科学大学	学長	鎌土 重晴
和歌山工業高等専門学校	校長	井上 示恩
株式会社日進製作所	人事部長	石田 早人
舞鶴市中学校長会	会長	小林 由美
舞鶴市政策推進部	部長	桑垣 義亮
(企画政策課主幹 川北大智氏代理出席)		
京都新聞社舞鶴支局	支局長	石崎 立矢
舞鶴工業高等専門学校後援会	会長	椎野 矢征史

学内出席者

林校長、上杉評価委員長、加登教務主事、山田学生主事、内海専攻科長、
片山総務担当副校長、牧野人文科学部門長、奥村自然科学部門長、
谷川機械工学科長、丹下電気情報工学科長、伊藤電子制御工学科長、
玉田建設システム工学科長、宝利教学 IR 室長、
牧野事務部長、大西総務課長

4. 校長冒頭挨拶

議事に先立ち、林校長から挨拶があった。

5. 委員の紹介

上杉評価委員長から、外部評価委員の紹介及び議題の説明があった。

6. 委員長選出

本校外部評価委員会規程第 5 条に基づき、委員の互選により鎌土委員が委員長に選出された。

7. 議事

- (1) 高専の概要と舞鶴高専について [発表者 校長 林 康裕]
- (2) 前回コメントへの回答及び舞鶴高専の自己点検について [発表者 評価委員会委員長 上杉智子]
- (3) 観点「①教育の内部質保証システム、③準学士課程の教育活動の状況、⑤専攻科の教育・研究活動の状況」について [発表者 教務主事 加登文学、専攻科長 内海淳志]

発表と質疑応答ののちに、次のような評価シートによって、「①教育の内部質保証システム、③準学士課程の教育活動の状況、⑤専攻科の教育・研究活動の状況」について、外部有識者に評価いただいた。

令和6年度 舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会 評価シート

評価者名： _____

評価の観点	評価項目	評点	コメント
① 教育の内部質保証システム	1. 学校の目的を踏まえた3つのポリシーが定められており、社会の状況に対応したものであるか		
	2. 内部質保証のための学内体制が整備されているか		
③ 準学士課程の教育活動の状況	3. 教育課程の整備・教育内容の工夫が適切に実施されているか		
	4. 成績評価と単位認定・卒業認定は適切に実施されているか		
	5. 卒業生の進路状況は学校の目的に適合したものであるか		
⑤ 専攻科の教育・研究活動の状況	6. 教育課程が適切に編成されているか		
	7. 研究指導体制は適切か		
	8. 教員の活動の成果が得られているか		
	9. 研究活動に対する学校としての支援体制が適切に整備されているか		

【評点】 4：十分に実施されている。 3：実施されている。 2：実施がやや不十分である。 1：実施が不十分であり、改善が望まれる。

自由記述欄（ご意見やお気付きのことがありましたらご記入ください。）

（次ページ、評価のまとめ）

評価のまとめ

評価の観点	評価項目	評点		コメント
① 教育の内部質保証システム	1. 学校の目的を踏まえた3つのポリシーが定められており、社会の状況に対応したものであるか	委員 A	3	・全学科で数理・データサイエンス・AI 教育プログラムのリテラシーレベルを、また電気情報工学科では応用情報レベルを認定されていることから、情報技術の素養を修得していることもポリシーに反映されては如何でしょうか。 ・学校全体の運営に係る PDCA サイクルが確立されており、さらに改善（教育改善委員会の位置づけの見直し等）を図るとのことで、より一層内部質保証が徹底されると期待できる。今後とも継続的に学校全体で検証・検討願いたい。 ・目的に対して矛盾の無いポリシーがある。 ・多面的なアンケート調査（Check・Action）で適切性を担保されていること、相当なご努力と感心させられました。
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	4	
		委員 G	4	
		総点	27	
	2. 内部質保証のための学内体制が整備されているか	委員 A	4	・優れた人材を確保するための、時代に対応した定員確保の取組が行われている。 ・自己点検・評価において、OB・OG の他、就職先、進学先へのアンケート等、多様な視点から評価する仕組みを設けている。 ・「地域、社会の問題解決のために他者と協働」「習得した知識・技術の融合、創造」「成果の発表」をポリシーに掲げており、教育課程編成にも生かしています。成果の地域での発表をより一層強化することで地域の教育機関としての存在感、愛校心・愛郷心を育てていただきたいと思います。
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	4	
		委員 G	4	
		総点	28	
③ 準学士課程の教育活動の状況	3. 教育課程の整備・教育内容の工夫が適切に実施されているか	委員 A	4	・MCC を含むカリキュラムと DP の関係が明確で理解しやすく整理されている。 ・成績評価と単位認定・卒業認定は適切に実施されている。 ・卒業生の進路状況は学校の目的に適合している。 ・地域創生型の特別選抜により入学した学生の進路状況についてはどのようになっているのでしょうか？ ・左記の全ての評価項目について、十分適切に実施され成果を上げていると認められる。卒業生についても多くの者が、進学先や就職先で高く評価され、産業や学術の発展に寄与していると評価出来る。さらに、「モノづくり」から「コトづくり」への進展も大いに期待できる。
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	4	
		委員 G	4	
		総点	28	
	4. 成績評価と単位認定・卒業認定は適切に実施されているか	委員 A	4	・「評価項目 5」について、進路状況の報告の中で、地域に根差す・地域に貢献する結果（地域で就職した卒業生数）が読み取れなかった。 ・各学科、カリキュラムで適切に教員が配置され、設置基準、モデルコアカリキュラム、ディプロマポリシーを満足する教育課程が整備されているほか、創造性を高め、実践力を育む教育を実践されている。 ・学生の進路についても、学生の希望や将来を考えた選択肢の充実に努められている。 ・地域でのものづくり人材確保、定着に向け、地元の
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	3	

⑤ 専攻科の教育・研究活動の状況	5. 卒業生の進路状況は学校の目的に適合したものであるか	委員 G	4	企業や自治体とのじゅうぶんな連携を図っておられると拝察します。学生との日常的なコミュニケーションや、地域社会と協働した学習活動を通じて、より一層その効果が上がるよう期待します。 ・アドミッション・ポリシーを示す上で高専を目指す者には当然理解されている事と考えますが、工学を担う人材を育成する為には、高専自体を知らない子供達に是非知ってもらう為にも高専在学生の生の声を各中学・小学校で伝える活動を増やしてゆくと良いように思います。
		総点	27	
		委員 A	4	
		委員 B	4	
		委員 C	3	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	3	
		委員 G	4	
		総点	26	
	6. 教育課程が適切に編成されているか	委員 A	4	
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	3	
		委員 G	4	
		総点	27	
	7. 研究指導体制は適切か	委員 A	4	
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	4	
		委員 F	4	
		委員 G	4	
		総点	28	
	8. 教員の活動の成果が得られているか	委員 A	3	
		委員 B	4	
		委員 C	4	
		委員 D	4	
		委員 E	3	
		委員 F	4	
		委員 G	4	

9. 研究活動に対する学校としての支援体制が適切に整備されているか	総点	26
	委員 A	4
	委員 B	4
	委員 C	4
	委員 D	4
	委員 E	4
	委員 F	4
	委員 G	4
	総点	28

<自由記述>

・SNSを活用した広報活動、寮の指導のための宿泊等の軽減、校長自らの科研費申請書の添削等、今後の教職員の自発的なアイデアの創発とそれら通じた活性化に繋がることを期待したい。

・15歳人口の継続的かつ大幅な減少や京都府近隣の情勢などにより厳しさを増す中、今後とも継続的に、林校長の主導の下、学校全体が一丸となって教育の質保証を確実に実施され、入学定員を確保され地域の中核的存在であり続けることを期待します。また、若手教員・女性教員が順調に採用できているということも大きな成果であると思います。さらに地域社会に学生を受け入れてもらう（学寮的対応）という試みについては、学寮施設等の整備が予算的に困難である他の多くの高専にとり、有意な参考事例となると期待できます。貴学のさらなるご発展を心から祈念申し上げます。

・各中学校では、様々な方面の方を招き、キャリア講演会を実施しています。高専の卒業生で、世界につながるような仕事をされているような方、できれば、近隣の事業所で、そこでのモノ作りが、実は、世界につながっている・・・というような卒業生がおられたら、ぜひ、中学校に紹介いただき、繋いでいただくとありがたいです。そういう機会が高専や高校進学への意欲につながり、また、高専・高校卒業後も地元に戻り、人のために、自分の力を使う、そんな子どもに育ってくれると嬉しいと思っています。よろしく願います。

・高専から輩出される多くの人材が我が国のモノづくりを支える企業・事業所で活躍されており、このことは舞鶴高専の教育体制に対する信頼と評価によるものであると考えています。

・卒業生が多方面で活躍されていることは大変うれしいことですが、卒業生が地域に定着し舞鶴高専を支え、高専を盛り上げるというサイクルが希薄化する中で、地域が高専を支える機運を醸成するため、地元企業や学校、住民、自治体、さらには卒業生との連携は、これまでも増して重要になるものと考えています。

・京都府北部における重要な高等教育機関として、舞鶴高専と卒業生の皆さんの活躍を応援しています。

・会議冒頭の林校長のご説明後にわたしが申し上げた京都市内での高齢世代宅での学生の下宿は『次世代下宿「京都ソリデール」』という名称の取り組みです。京都府庁のウェブサイト等に載っています。ご参考まで。

・後援会（私個人）としましては、十分に満足しております。教職員の皆様のご尽力に感謝しているところです。是非、この学校の環境を多くの人（これからの子供達）に知ってもらい、中学1年から勉強を頑張るきっかけにもしてもらいたいと考えます。